

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.52



フリマアプリに見る 待てない世代の影響

NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原 嘉一（しのはら・かいち）

CMの影響もあり、フリマアプリが大変人気が出ている。フリマアプリ最大手といわれる株式会社メルカリの運営する「メルカリ」「アッテ」は子どもたちでも知っている。小学3年生から高校生までに聞き取りをしてみると、実際に使用したことのある生徒は一部だが、アプリをダウンロードして見ている生徒は大変多い。

フリマアプリの「メルカリ」は、大変簡単に出品や購入ができるのが特徴で、スマホさえあれば、不用品を写真で撮って、値段とコメントを添えると出品できる。メルカリ安心サービスを使えば出品も購入もお互い身元を明かさずに取引できる。商品の発送は、メルカリらしくらく匿名発送システムで個人情報を守っている。これまでと同様のサービスはあったが、どうしても取引相手に住所や電話番号が漏れるリスクがあった。しかし、メルカリ社はこの問題を解消している。ネットオークションだと金額が落札までわからないが、フリマアプリなら即決着がつく。待てない世代には打ってつけのサービスだ。

待てない世代と書いてみたが、今の子どもたちは全てがハイスピードで「待つこと」が苦手だ。

これまでは、日曜の夜7時に始まるアニメを1週間楽しみに待っていた。月曜はこの番組、木曜は……とガマンを強いられてきた。でも、YouTubeやアベマTVの影響で見たい時に見たいモノが見られる。生活そのものが待たなくなってきた。ガマンしなくても手に入れる環境ができてしまった。早送りをすると見たい場面だけ何時間でも何度でも見られる。

この待てない世代は、オークションのように落札日を延々と待つシステムに合わなくなってきた。メルカリ社はいいタイミングで進出してきている。2013年設立で既に黒字化している。

子どもの利用方法を見ていると、不用になったゲーム関連機器や親の使用しなくなったスマホ、タレントグッズ等を出品している。ウィルスの作り方を販売して問題となった中学生の事件も報道されていたが、ネット上にあるいたずら

目的のアプリをダウンロードするURLを「メルカリ」で販売し、ポイントを集めていた。ウィルスを制作したわけではないようだが、報道を見るとウィルスを販売したように受け取れる。「メルカリ」はポイントでも売買できるため、子どもたちはポイントで情報も買うのだ。この中学生から購入した4人の学生もポイントで支払いをしており、書類送検されている。

家の中にある不用品や、リサイクル店に並ばないようなささいな景品、コンサートグッズなどが子どもたちに人気で、コレクターが買ってくれる。昔、お母さんが大事にしていた芸能人のグッズなどが、子どもたちのお小遣いになっている。

親の仕事を継ぐ事ができるのも「メルカリ」等で簡単になった。ホームページを立ち上げなくても、親の作る農産物を販売できる。子どもが農業や林業、漁業等に関わるきっかけにもネット販売アプリは有効だ。親子でフリマアプリの使い方などを考えてみるのが、キャリア教育にもつながる。

「メルカリ」の他に同社の「アッテ」というサービスがある。こちらは、直接相手とコンタクトを取り、出会って受け渡しをするサービス。地元の人の商品を検索できる。イベントの参加募集や、求人もあるが、子どもたちがストーカーされないように親が管理する必要がある。子どもの電話番号を相手に教えてしまうと、SNSでつながってしまう危険性もある。

メルカリ安心サービスのおかげで、ストーカー的な被害は起きないだろうが、「気軽さ」がこれからの世代をまた変えてしまわないだろうか。